原発事故は悪である

高校教師

「地震・津波は自然災害だが、原発事故は悪である」どこかで読んだ言葉と思うが、ソースを忘れてしまった。この旅行を終えて、私の第一の感想である。

この旅では、宮城県、福島県の被災現場を見ることと、福島の実態を聞き、話し合うことの２点が主だ。

宮城県では東松島市、石巻市、女川町の津波被災現場を説明していただいた。どの地も、ここに家が建ち、線路があり、店がにぎわっていたのが嘘のように何もなく、草ぼうぼうの荒れ地だけが残っていた。知識としては知っていたが、現地で３．１１当日のこと思うと言葉が出なかった。

しかし、福島の第一原発２０キロ圏内はそれにも増して凄惨な状況だった。人が住めなくなった町に、３．１１のままの状況が残る。家は津波で１階ががらんどうのままその地に建っている。荒れ地に津波で流された車や船が横になったりひっくり返ったりしてその地に残っている。宮城では感じた「復興」が、ここではかけらもない。

室内のワークショップでは、福島の農・漁業者のお話を聞いた。地震だけなら同じ地での再開もありうる。住めない土地では農業はできない。また、試験操業と検査を繰り返して少しずつ水揚げ可能魚種を増やしてきた相双漁協。世界三大漁場だけあり、種類豊富な魚を安全・安心に水揚げできるよう準備してきたのに、ここにきての汚染水漏れ問題で、９月から操業が中断する。「苦渋の決断」と漁業者は表現した。魅力ある仕事である漁師をやめることは考えられないと言う。９月から彼らはどうして暮していくのだろう。

だから、もう一度「原発事故は悪である。」日常の生活が人為的に壊され、戻れない。農業者の三浦さんの言う「収入ではなく、やりがいのある仕事としての農業を続けたいから、日本の原発を止めて、取り出せるうちに燃料棒を抜き出してほしい」その通りだ。